

主な登場人物



シャチョー
代表の西岡さん。元俳優で戦隊モノのリーダー役だったことも

ひゆう
東京店マネージャー。同じく元俳優で無類のアイアンマン好き

タイキ
チーフメカニック。ハーレー以上にラジコンの走りにこだわる



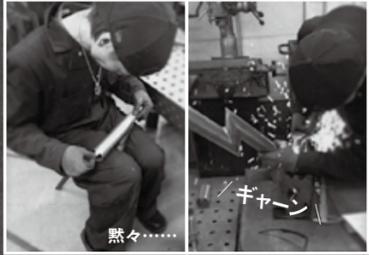
タツ
チーフメカニック。チョップパー乗りと思えぬほどマジメな好青年

ヒロ
メカニック。最近散髪を命じられエグザイルに似てることが発覚

いやー、もっとマフラー攻めないとダメですね



タイキ、男らしいこと言うなあ



黙々……



男らしいなあ

大きな部分の希望を伝える以外はプロにお任せがイチバン、と思っ
ていましたが、ウインカーの位置、ナンバーの位置など意外と好み
が分かれる部分であるんです。西岡さんは全ての要望を細やかに聞き出して
くれました。おかげですべてがパーフェクトな位置関係に



ツインカムを美しく見せるため若干長くなったフレーム。跨ってハンドルお立ってすると体の小さいワタシは完全に腕が伸びきってしまいます。ハンドルも幅が広くてかなりムリなポジションだったのでエンドを詰めて無理のないポジションを出してもらいました



ポジションが決まったらステップの位置出し。油圧のフットクラッチ、なんて存在しないシステムもここで製作に入るのであります



コイルは見えない！と言う理由でベルトの合間に埋め込んだじゃう作戦。これもベルトドライブをかなり加工しないと取れないのであります

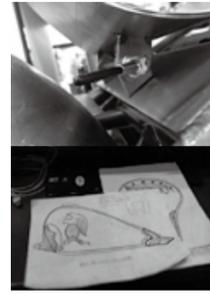


編集長
ダッタ竹内の
超不定期コラム
EDITOR'S
COLUMN

【第十二回】
やっつとできたよ、渾身の
ツインカムチヨップパー製作記。
外装の次は細やかすぎる「つ・く・り・こ・み」編

ダッタ竹内 TEL:03-6424-8265 www.selexile.co.jp

先月は「お・も・て・な・し」で
ありましたが、今月は「つ・く・り
・こ・み」であります。外装ができ
るとバイクらしくなるので出来ちゃ
った気がしてしましますが、バイク
である以上すべてが機能するように
マフラーに、灯火類やブレーキ、コ
イル、もちろん各部のパーツを設
置する場所を作らないと動
きません。今回は、ステータスな
状態からすべてを設置するのす
から大変です。カスタムはよく細部
で差が出る、といいますが、配線やケ
ーブル類をどこに通すか、電装類を
どこに置かないと大きく影響してきま
り、仕上がりに大きく影響してきま
す。こうした細かな部分をどう処理



するか？がビルダーのウデの見せ
どころなのです。
さて、先月も言いましたが1ヵ月
強という製作期間ですべてが流れ作
業の中のハナシであります。
「シートの位置決めたいんで、お店
に来てもらえますかあ？」と連絡が
来たので行つて跨ってみると「デカ
イ、のです車体が。エボより明らか
に大きくなったツインカムのエンジ
ンに合わせたフレームは、ほんの数
インチですが前に長い様子。ハンド
ルを手前に引けばいいのですが、お
つ立てる方がカッコよろしいのであ
ります。
「なら、シートの位
置ちよつと前にし
てみますね」と西岡さ
ん。とはいえリアフ
ェンダーとシートが
離れすぎてカッチガ
ヨ悪いので毎度なが
ら、せめぎ合いなの
でした。ステップの
位置も出たところで、
いよいよ細かなステ
ータ類に手が付きます。
シートを張り出し
ながら、ステー



ブレーキ側はフレームにベグをマウントする方式で、サンダーバイクのフォアコンを流用してミッドコントロールを作ります

スイングアームには、どうしてもベルトが当たってしまう部分があるそう、ここにステンレスのガードを溶接してパウダーコートがはげないようにします。細やかすぎる「お・も・て・な・し」ですね



スイングアーム周りもいろいろステーが必要で、外装だけ出た左の状態から、ブレーキやナンバーやウインカーやらすべてつけた状態の写真を、いろいろのステーを作らないとダメというのが分かります

製作 すべてが位置が決まらないと
フレームもパウダーコートに出せま
せんからね。
「ここでまたもや「お・も・て・な
・し」。スイングアームに何やらス
テンの板を溶接している様子。
「アームが動いた時に、どうして
この部分にベルトがこすれてしま
います。それでパウダーコートが剥
れるとつたいないですから、あら
かじめステンを付けておくん
です。これならこすれても剥げませ
んおそろく純正でもやってないの
は？」と言う経験に基づき細やかな
気配り。感動いたしました。
そして驚くべきチームワークで同
時進行していたのがマフラーの製作。
「マフラーどうします？ ショップガ
ンにしようかと思ってるんですけど
、「なら西岡さんのと同じSシ
ョップにしてください！」「あれ、作
るの大変なんですけど……」「して！
」というわけで、隠れキャラ、タイキ
先生の本領発揮であります。隠れキ
ャラって何よと言う方は、製作記の
一回目をご覧くださいね。セレグテ
ッドのクオリティの高さは、製作に
関わるスタッフのモチベーションの

高さにあつて、製作の現場では上下
関係なく、意見し合える環境にある
のだとか。ウラヤマシイですね。
「タイキがオイルタンクのギリギリ
までマフラー攻めろつて凄かったん
ですよ」と西岡さんも語る渾身の
マフラー。実際乗っているこの形
状でヒートガード付きという構造も
合わせて、全く足がコゲません。ツ
インカムだとノーマルでも気が付
いたらマフラーで雨カッパでも着けてま
したとよく聞くハナシなんです
けどね。スグレモノであります。
ここでチームワークのハナシです
が、カスタムショップのお仕事は、
カスタムハーレーを作るわけですが、
接客、デザイン、製作、パーツや鋼
材の仕入れから、メッキや塗装など
外注作業の発注など、多岐にわた
ります。お一人でやっているショップ
ではビルダーさんが全部一人でこな
すわけですから、大変です。カスタ
ムに時間がかかる理由がなんとなく
わかった気がします。
さて、いよいよ次回は塗装やらの
最終回。今回はどんな「お・も・て
・な・し」ん、いや「つ・く・り・
こ・み」が待っているかお楽しみに！

